

## 2019 年環境設備友の会開催報告

### A holding report of a 2019 environmental facilities Circle

西田 光宏<sup>\*1</sup>  
Mitsuhiro Nishida

#### 1. はじめに

関東学院大学は建築・設備分野の学部として、建築・設備と芸術・工学・社会学・経済学等の諸学を包括するとともに広く「環境」との融合を目指し「建築・環境学部」を2013年に創設した。さらに翌2014年にはその実証教育の場として「5号館 建築・環境棟」を建設し、新たな建築の教育を進めている。2015年には、建築・環境学部の前身であり、日本における建築設備教育を主導してきた旧建築設備工学科が創設されてから50年が経過したことから、多方面からの協力により、関東学院大学 建築設備工学科 創設50年記念事業を384名の参加者で盛大に開催することができた。

この事業後、参加者の多くのから「関係者が集まる場を毎年開催して戴きたい」との要望を頂いた。そこで、建築・設備・環境に関わる皆と共に教育者・OB会である燦建会を交え「関東学院大学が目指すこれからの環境設備」を紹介、議論、交流する場を「環境設備友の会」として計画・推進することとした。

基調講演はその年の時流にあったテーマで講師にお願いしている。2015年は隈研吾氏『環境と場所の時代』、2016年は粕谷淳司専任講師『エネマネハウス2015参加作品の紹介』、2017年は大塚雅之教授『5号館 受賞記念基調講演』、2018年は学校法人 関東学院 増田 日出雄 理事長の講演会『外から見た建設業と関東学院の今後』であった。

#### 2. 開催報告

2019年は5回目の環境設備友の会を11月8日に横浜ロイヤルパークホテルにて参加者210名、参加企業87社が集い開催した。

当日は、設備21回生の金津文夫氏と経営27回生の西澤浩幸氏が司会を務めた。

第一部の講演は、石神会長の開催挨拶から始まった（写真1）。関東学院大学規矩学長に「地盤災害から都市を守る」という題目で講演頂いた（写真2）。近年は日本各地で自然災害が多発していて、参加者にとっても興味深いテーマであり、建築系技術者にとっても分かりやすい講演内容であった。



写真1 石神環境設備分科会会長



写真2 関東学院大学規矩学長



写真3 大塚建築・環境学部学部長

第二部の懇親会は、学校法人関東学院増田理事長、鈴木燦葉会（OB会）会長、深海燦建会会長の来賓挨拶から始まり、大塚建築・環境学部学部長挨拶（写真3）と遠藤先生、山口先生、中村先生、呉先生、招待先生の紹介があった。江波燦葉会副会長の乾杯

<sup>\*1</sup> 環境設備分科会幹事長（設備13回生）

Environmental Facilities Circle, Secretary-Generel

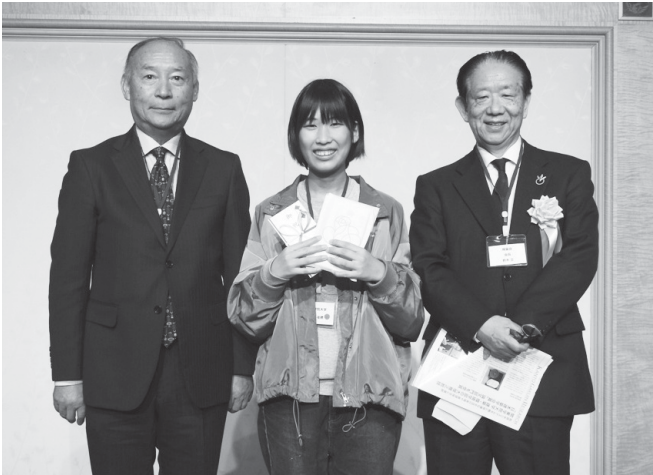


写真4 建築・環境学部3年 長橋さん



写真5 参加学生

発声により、会食と歓談が始まり、各々が挨拶や歓談を楽しんだ。

また、2019年は本学と建築・環境学部にとってすばらしいニュースが多々あったが、大塚学部長が5月30日に日本建築学会の「2019年日本建築学会賞(論文)」を受賞され、建築・環境学部3年の長橋佳穂さんが9月21日に学生を対象とした建築コンテスト「建築新人戦2019」に挑戦し、応募作品552作品中の最優秀賞を受賞したので、この場で燦葉会と燦建会からお祝いさせて頂いた(写真4)。

スピーチコーナーでは、関東学院大学 就職支援センター 立志課長にお話し頂いた。参加学生9名(写真5)の自己紹介があり、将来就きたい分野を話してもらったところ、たくさんの参加企業から、楽しい勧誘があり、とても楽しい時間が過ぎた。

定永燦葉会燦建会副会長(写真6)のお礼挨拶と中締めがあり、会はお開きとなった。

### 3. おわりに

今後も継続して毎年一回「環境設備友の会」を開催する予定であり、2020年は11月13日に「環境設



写真6 定永燦葉会燦建会副会長

備友の会」を横浜ロイヤルパークホテルで開催する。本学・先生・OB・建築関連企業・学生が、楽しい時間を共有して、社会に役立つことができれば、本学の建学精神『人になれ、奉仕せよ』に繋げることができると思う。